

田中寅夫教授の御退官によせて

田中寅夫先生は平成11年3月31日をもって京都大学を定年退官され、同年4月1日付をもって京都大学名誉教授となりました。田中寅夫先生には研究・教育をはじめとするあらゆる活動を通じて、39年の長きにわたって京都大学防災研究所の発展にご尽力をいただきました。田中寅夫先生のご功勞に対しまして、所員一同心から感謝の意を表します。

田中寅夫先生は京都府立峰山高等学校を卒業された後、京都大学理学部へ入学され、昭和33年3月に同学部地球物理学科を卒業されました。その後、京都大学大学院理学研究科地球物理学専攻修士課程に進学され、昭和35年3月に修士課程を修了され、同年4月に京都大学防災研究所助手に採用されました。さらに、昭和40年4月に同助教授に昇任、昭和63年4月に同教授に昇任されました。なお、昭和45年1月に論文題目「Study on Meteorological and Tidal Influences upon Ground Deformations」により京都大学理学博士の学位を授与されています。

この間、先生は平成2年6月より防災研究所地震予知研究センターを担当され、また平成5年5月より平成7年4月まで京都大学防災研究所長を務められました。

田中寅夫先生は、学術研究および教育の各分野におきまして多くの業績を挙げられますとともに、学内外において管理運営面におきましても多大の功績を果たされました。その主なご功績を示しますと次の通りであります。

研究面におきましては、簡易型長期観測用傾斜計、光波測量、GPS（全世界測位システム）による宇宙測位方式を開発・発展され、地震予知のための地殻変動観測を進めてこられました。特にGPSによる地殻変動計測については、試験段階から注目され、日本に1台もGPSがなかった時代から、国土地理院が1000台近いGPS定常観測点を持つに至る現在に至るまで研究面で学会をリードする傍ら、大学におけるGPS研究の方向性を示し続けてこられました。また、国際共同研究を通してインドネシアにおけるGPSによる地殻変動の研究と教育を立ち上げるなど、国際的な研究および教育を推進してこられました。

その一方でGPS測位における誤差要因である水蒸気分布の観測、GPSから入手される水蒸気情報をリアルタイムで気象数値予報に取り込む方法や、観測された水蒸気情報データベースを河川、水資源、水文循環の研究に役立てる日本型GPS気象学の立ち上げおよび発展に尽力され、地殻変動から気候変動に至るまでの地球システム科学を構想してこられました。研究分野を越えて新しい研究領域の舵取りをされる様子は、「下向き（地殻変動観測）の研究から、上向き（水蒸気観測）の研究への華麗なる転身」と称されました。

また、教育面におきましては京都大学大学院理学研究科をはじめ、京都大学教養部、京都大学大学院人間・環境学研究科の指導教授として多くの大学院生および学部学生の教育と研究指導を行われ、優れた後継研究者の育成に努められました。田中寅夫先生の指導を仰いだ研究者の中には、現在関連研究分野の第一人者として活躍しておられる方も少なくありません。

さらに、上述しましたように京都大学防災研究所長、地震予知研究センター長を併任されましたことをはじめ、京都大学評議会、同将来構想検討委員会、同教育課程委員会などの委員を務められ、京都大学の運営においても多大の功績を果たされました。

また、学会活動も活発に行われ、昭和52年4月から昭和62年3月まで日本測地学会委員、昭和62年4月から平成9年3月まで同評議員、平成9年4月から平成11年3月まで同会長を務められ学会の発展に大いに貢献されました。国際学会においても平成3年7月から平成11年7月まで国際測地学協会（IAG）第7常置委員会（CRCM）総裁を務められるなど広く国際的にも活躍をされました。また、東京大学地震研究所、国立天文台、文部省学術審議会、日本学術会議、防災科学技術研究所、測地学審議会などの委員を務められ、地震予知研究の推進に大きな役割を果たされました。

このように、田中寅夫先生は学術研究ならびに教育におきまして多くの優れた業績を挙げられ、大学の管理運営および国内・国外における研究推進における管理運営に多大の貢献を果たしてこられました。

防災研究所は平成8年度の改組ならびに全国大学の共同利用研究所への移行、平成9年度の卓越した研究拠点(COE)の認定を経て、従来力を入れてきた災害を伴う自然現象の予知・予測と災害の防止・軽減のための構造的な対応法の研究といった理工学的な研究と、被災する側の人間及び社会の問題を人文・社会科学、計画科学、さらには危機管理までを含めた研究とを有機的に結びつけた総合的な研究の推進体制の整備を進めてきました。これに伴い、研究所の設置目的を災害に関する学理の研究及び防災に関する総合研究に変更しております。このことは分野およびセンターの垣根を超えて広く、その上さらに深化した防災学の追求を果たすべき時期を迎えていることを意味するものであります。

このように重要な時期に、深遠なる学識と豊かな経験をお持ちの田中寅夫先生が退官されますことは防災研究所にとりまして大きな痛手であり、誠に残念でございますが、田中寅夫先生の言われる「下向きの研究から、上向き横向きの研究へ、そして八方にらみの、八方から眺められる学問へ」に込められた意味を、残された所員一同がかみしめ、さらに防災研究所と防災学の発展のために粉骨砕身努力することにより先生のご労苦に報いたいと存じます。

田中寅夫先生におかれましては、今後ともご健康に恵まれ、新たな環境でますますご活躍されることをお祈りいたしまして、感謝の言葉とさせていただきます。

ありがとうございました。

平成11年5月

京都大学防災研究所長

池 淵 周 一



田 中 寅 夫 教 授

田 中 寅 夫 教 授 略 歴

(学歴・職歴)

昭和10年 7月17日	京都府中郡大宮町に生まれる
29年 3月	京都府立峰山高等学校卒業
29年 4月	京都大学理学部入学
33年 3月	京都大学理学部地球物理学科卒業
33年 4月	京都大学大学院理学研究科地球物理学専攻修士課程入学
35年 3月	京都大学大学院理学研究科地球物理学専攻修士課程修了 京都大学理学修士
35年 4月	京都大学防災研究所助手
38年 4月	京都大学教養部指導補佐員（非常勤）（昭和39年10月）
40年 4月	京都大学防災研究所助教授
42年 4月	京都大学大学院理学研究科担当（平成11年 3月まで）
46年10月	京都大学教養部講師（非常勤）（昭和47年 3月まで）
52年 8月	京都大学防災研究所附属上宝地殻変動観測所長事務代理（昭和52年 8月まで）
57年 4月	大学入試センター教科専門委員会委員（昭和59年 3月まで）
63年 4月	京都大学防災研究所教授（平成11年 3月まで）
平成 2年 6月	京都大学防災研究所附属地震予知研究センターに配置換
5年 5月	京都大学防災研究所長併任（平成 7年 4月まで）
5年 5月	京都大学評議員併任（平成 7年 4月まで）
5年 5月	京都大学建築委員会委員（平成 7年 4月まで）
5年 5月	京都大学防災研究所附属地域防災システム研究センター長併任（平成 7年 4月まで）
5年 5月	京都大学防災研究所附属水資源研究センター長併任（平成 7年 4月まで）
5年 5月	京都大学防災研究所附属都市耐震システム研究センター長併任（平成 7年 4月まで）
5年 5月	京都大学防災研究所附属地震予知研究センター長併任（平成 7年 4月まで）
5年 5月	京都大学超高層電波研究センター協議員協議員（平成 7年 4月まで）
6年 4月	京都大学将来構想検討委員会委員（平成 7年 4月まで）
6年 4月	京都大学教育課程委員会委員（平成 7年 4月まで）
6年 4月	京都大学高等教育教授システム開発センター設置準備委員会委員（平成 7年 4月まで）
6年 4月	京都大学保健衛生委員会委員（平成 7年 5月まで）
6年 4月	京都大学防災研究所附属桜島火山観測所長事務取扱（平成 7年 5月まで）
9年 4月	京都大学大学院人間・環境学研究科担当（平成11年 3月まで）
9年 5月	京都大学防災研究所附属地震予知研究センター長併任（平成11年 3月まで）

(学会等)

昭和52年 4月	日本測地学会委員（昭和62年 3月まで）
62年 4月	日本測地学会評議員（平成 9年 3月まで）
平成 3年 7月	国際測地学協会（IAG）第7常置委員会（CRCM）総裁（平成11年 7月まで）
9年 4月	日本測地学会会長（平成11年 3月まで）

(審議会・委員会)

昭和56年 4月	東京大学地震研究所地震予知観測情報センター共同利用委員会委員（昭和58年 3月まで）（60年 4月から62年 3月まで）（平成元年 4月から平成 3年 3月まで）
58年 2月	文部省学術審議会専門委員（科学研究費分科会）（昭和60年 1月まで）
平成 3年 2月	国立天文台位置力学・地球回転専門委員会委員（平成 4年11月まで）（平成 5年 3月から 6

	年11月まで)
3年4月	地震予知連絡会員 (平成11年3月まで)
3年8月	日本学術会議測地学研究連絡委員会委員 (平成9年8月まで)
4年10月	科学技術会議専門委員 (平成 年 月まで)
5年7月	宇治市防災会議委員 (平成 年 月まで)
5年7月	防災科学技術研究所運営委員 (平成7年4月まで)
6年2月	測地審議会委員 (平成8年1月まで)
6年6月	東京大学地震研究所協議会協議員 (平成8年3月まで)
6年9月	東京大学地震研究所地震予知研究協議会委員 (平成11年3月まで)
10年5月	測地学審議会臨時委員 (平成12年1月まで)

田 中 寅 夫 研 究 業 績
論 文

発表年	論 文 名	発 表 誌 名	共 著 者
	A) 地殻変動・地面変形に関する研究		
1961	チリ地震津波による土地の傾斜及び伸縮変化	京都大学防災研究所年報, 第 4 号, 45-60.	田中 豊
1962	最近の地震に伴う地殻の異常変動について (第 1 報)	京都大学防災研究所年報, 第 5 号A, 28-43.	西村英一・田中 豊
1962	和歌山における局所地震前後の微細土地変動の研究 (第 1 報)	京都大学防災研究所年報, 第 5 号A, 44-56.	西村英一・岸本兆方
1963	On observations of local earthquakes and crustal deformation at Wakayama	Special Contributions, Geophy. Inst., Kyoto Univ., No. 1, 169-177.	Y. Kishimoto.
1963	和歌山における局所地震前後の微細土地変動の研究 (第 2 報)	京都大学防災研究所年報, 第 7 号, 17-24.	岸本兆方
1964	和歌山における局所地震前後の微細土地変動の研究 (第 3 報)	京都大学防災研究所年報, 第 7 号, 61-65.	
1964	Study on the relation between local earthquakes and minute ground deformation, Part 1. On some statistical results from local earthquakes occurred in the Wakayama district	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol. 14, 55-77.	
1965	地殻変動記録の Digital Filtering	地震第 2 輯, 第 18 巻, 第 4 号, 235-244.	三雲 健
1966	Study on the relation between local earthquakes and minute ground deformation, Part 2. An application of digital filtering to the tiltgram for the detection of the minute anomalous tilting of the ground	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol. 16, 57-67.	
1966	Study on the relation between local earthquakes and minute ground deformation, Part 3. On effects of diurnal and semi-diurnal fluctuations of the temperature and atmospheric pressure on ground tilts	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol. 16, 17-36.	
1967	和歌山における局所地震前後の微細土地変動の研究 (第 5 報)	京都大学防災研究所年報, 第 10 号A, 149-155.	
1967	Continuous observations of the ground deformations related to the Matsushiro Earthquakes	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol. 17, 49-61.	T. Ichinohe・M. Takada ・ T. Furuzawa・T. Kato ・ M. Koizumi ・ M. Yamada
1968	和歌山における局所地震前後の微細土地変動の研究 (第 6 報)	京都大学防災研究所年報, 第 11 号A, 221-228.	
1968	Study on the relation between local earthquakes and minute ground deformation, Part 4. On spectral structures of the tiltgrams observed at Akibasan, Wakayama City	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol. 17, 7-20.	
1968	On the effect of atmospheric pressure upon ground tilt	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol. 18, 23-36.	

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1969	Study on meteorological and tidal influences upon ground deformations	Special Contributions, Geophys. Inst., Kyoto Univ., No. 9, 29-90.	
1971	光波測量による地殻変動観測の精度について,	京都大学防災研究所年報, 第14号A, 15-31.	大谷文夫
1971	光波測量による地殻水平ひずみの観測(第1報)	京都大学防災研究所年報, 第14号A, 33-40.	高田理夫・尾上謙介・山田 勝・藤田安良・大谷文夫
1993	和歌山市大浦における地殻変動連続観測の結果(1960-1972年)	京都大学防災研究所年報, 第16号B, 29-35.	
1974	1960年チリ津波による土地の傾斜とひずみについて	地震第2輯, 第27巻, 第3号, 239-245.	
1977	跡津川断層における光波測量(第1報)	京都大学防災研究所年報, 第20号B-1, 69-75.	細 善信・土居 光・加藤正明・小泉 誠・和田安男
1979	和歌山県由良における地殻変動の連続観測	測地学会誌, 第25巻, 第1号, 38-48.	加藤正明・小泉 誠・細 善信・田中 豊・新屋兼次郎
1979	跡津川断層付近におけるボア・ホール型傾斜計による観測(1)	京都大学防災研究所年報, 第22号B-1, 45-54.	加藤正明・土居 光・和田安男・三雲 健・津嶋吉男・小泉 誠
1979	傾斜計・伸縮計記録に現れる降雨の影響とそのシミュレーション	測地学会誌, 第25巻, 第2号, 91-100.	
1979	和歌山県由良における傾斜, ひずみと降雨について	測地学会誌, 第25巻, 第4号, 302-312.	細 善信・加藤正明
1980	2台の光波測距儀による同時比較測距	測地学会誌, 第26巻, 第2号, 128-129.	木股文昭・山内常生・細 善信
1980	跡津川断層, 上宝および中央構造線における光波測量	京都大学防災研究所年報, 第23号B-1, 37-46.	細 善信・土居 光・小泉 誠・和田安男・加藤正明・和田博夫・三雲 健
1981	紀州鉾山における土地傾斜観測	測地学会誌, 第27巻, 第1号, 1-10.	細 善信・小泉 誠・加藤正明
1981	On viscoelastic changes appearing on tiltmetric and extensometric records of the ground	J. Geod. Soc. Japan, Vol. 27, No. 4, 225-238.	
1985	由良における地殻変動観測への降雨の影響—ひずみの場合—	測地学会誌, 第31巻, 第3号, 247-253.	細 善信・加藤正明
1986	跡津川断層西端上(天生)における地磁気全磁力の連続観測	京都大学防災研究所年報, 第29号B-1, 77-84.	土居 光・中山 武・加藤正明・和田安男・和田博夫・三雲 健
1986	室戸における地殻傾動の連続観測	京都大学防災研究所年報, 第29号B-1, 85-96.	加藤正明・平原和朗・細 善信・津嶋吉男
1986	Effect of rainfall on a continuous observation of ground tilts	The Royal Society of New Zealand, Bulletin, 24, 19-28.	Y. Hosono
1987	西南日本におけるGPSの地震予知への利用	GPSの測地利用に関するシンポジウム集録, 昭和62年1月28~29日於海上保安庁水路部, 31-40.	

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1988	Southwest Japan GPS Project	CSTG Bulletin, No. 10, 7-35.	K. Hirahara
1988	Monitoring of crustal movements in the Kii Peninsula, southwestern Japan,	J. Geodynamics, 9, 247-257.	M. Kato · Y. Hoso
1988	WM101による GPS 繰り返し測定の再現性	測地学会誌, 第34巻, 第3-4号, 221-222.	藪田 豊 · 中川一郎 · 藤森邦夫 · 藤原 智 · 中村佳重郎 · 伊藤 潔 · 平原和朗 · 細 善信
1988	Crustal movement along a collision boundary of plates (case of eastern Taiwan)	J. Geodynamics, 10, 189-205.	K. Kosuga · H. Sato · C. S. Hwa
1989	GPS 試験観測—半固定 GPS 観測システムと試験観測—	京都大学防災研究所年報, 第32号 B-1, 83-92.	平原和朗 · 細 善信 · 林 泰一 · 藪田 豊 · 田部井隆雄 · 中村佳重郎 · 綿田辰吾 · 藤森邦夫 · 藤原 智 · 伊藤 潔 · 加藤照之 · 村田一郎
1989	Tectonics and GPS observation project in Shikoku region, southwest Japan	Proc. Japanese Symp. on GPS (1989), 24-30.	T. Tabei · K. Hirahara
1990	相模湾周辺における GPS 観測 (概論)	測地学会誌, 第36巻, 第1号, 23-36.	村田一郎ほか
1991	可搬型レーザー伸縮計システムを用いた紀州観測室におけるひずみの観測	測地学会誌, 第36巻, 第2号, 101-108.	竹本修三 · 平原和朗
1990	Precipitation, groundwater and ground deformation	Global and Regional Geodynamics, IAG Symposia 101, Springer-Verlag, 132-139.	E. Shimojima · K. Mitamura · Y. Hoso · Y. Ishihara
1990	Earthquake prediction by geodetic surveys and continuous crustal movement observations in Japan	Global and Regional Geodynamics, IAG Symposia 101, Springer-Verlag, 303-310.	M. Tanaka · K. Sato
1990	山体トンネル湧水と雨水浸透	京都大学防災研究所年報, 第33号 B-2, 111-131.	石原安雄 · 下島栄一 · 三田村克巳 · 細 善信
1991	Daily observations of Uji-Shionomisaki base-line with MINI-MAC2816 and their error estimate	Proc. Japanese Symp. on GOS (1991), 112-116.	H. Doi · K. Hirahara · T. Hayashi
1991	GPS positioning and Geoid in southwestern Japan	Proc. Symp. on the Present State and the Future in the Study of Geoid, Held on Dec. 3-5, 1990, at Hydrographic Dept. Maritime Safety Agency, Tokyo, 97-100.	
1992	GPS の連日測定とその誤差	月刊地球, Vol. 14, No. 7, 420-425.	藤森邦夫 · 山本剛靖 · 土居 光
1992	GPS observation of Philippine Sea Plate motion relative to Eurasian plate in the Nansei-shotouregion southwest Japan [1990. 01-1991. 11] —Initial results—	Proc. Vol. II Sixth Intern. Geodetic Symp. on Satellite Positioning, 7 to 20 March 1992, 945-958.	K. Hirahara · Y. Kato · T. Tabei · T. Otozaki · K. Nakamura · Y. Hoso · T. Kato · I. Murata
1992	Daily routine GPS observation with Mini-Mac2816 in Kinki and Shikoku region, southwestern Japan	Proc. Vol. II Sixth Intern. Geodetic Symp. on Satellite Positioning, 7 to 20 March 1992, 969-978.	H. Doi · K. Hirahara · Y. Hoso · T. Hayashi · K. Nakamura · A. Suemine
1992	GPS 連日観測とその大気屈折誤差	京都大学防災研究所年報, 第35号 B-1, 271-277.	土居 光 · 平原和朗 · 林 泰一 · 末峯 章

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1993	Seepage into a mountain tunnel and rain infiltration	J. Hydrology, 147, 121-151.	E. shimojima · R. Yoshioka · Y. Hosono
1993	室戸において観測された地殻傾動（南北成分：1990年—1992年）	京都大学防災研究所年報，第36号 B-1, 355-364.	大村 誠・橋本佳絵・ 福嶋真里子・田部井隆雄・ 平原和朗・細 善信
1993	GPS Campaign for Crustal Deformation Monitoring in West Jawa, Indonesia 1992-1993	Proceedings of the CRCM'93, Kobe, December 6-11, 199, 43-46.	J. Kahar · I. Murata · S. Suparka · F. Kimata · S. Okubo · K. Nakamura · T. Prijatna · P. Mentosumitro · B. Setyadji · S. Miura · K. Villanueva · Kamutono · A. Suwandito · Sudarman
1993	Application of GPS to Monitor Crustal Movements in Japan	Proc. Intern. Conf. Cartography-Geodesy, Maracaibo (Venezuela)-1992, 5th Centennial of the Americas, Vol. 1, 324-336.	
1993	Crustal Movement Research and GPS in Japan	J. Geodynamics, Vol. 18, Nos. 1-4, 1-12.	M. Ohba
1994	ジャワ島西部における GPS 観測	京都大学防災研究所年報，第37号 B-1, 251-256.	中村佳重郎・木股文昭・ 村田一郎・大久保修平・ 三浦 哲・J. カハール・ ボニミン M. S. · P. コサン・バンバン S. · アグス S. S.
1994	Monitoring of Crustal Movements by GPS and Gravity Change around Volcanoes and Active Fault Systems	Japan-Indonesia Joint Research on Natural Hazard Prediction and Mitigation, edited by DPRI, Kyoto Univ., 56-66.	J. Kahar · F. Kimata · I. Murata · S. Okubo · Kamtono · Wedyanto · K. Nakamura · M. S. Ponimin · P. Kosasih · B. Setyadji · S. Miura · K. Villanueva · H. Edwin · A. Saewandito · S. Kurdinanto · P. Augustine · J. Rais · K. Hirahara · S. Suparka
1996	ジャワ島西部における GPS および重力測定	京都大学防災研究所年報，第39号 B-1, 173-182.	中村佳重郎・大谷文夫・ 木股文昭・大久保修平・ 里村幹夫・J. カハール・ バンバン S. · P. コサン・ イルダム A. · アグン I. · ケトト W. · ミビ R. · ハサヌデン
1996	上宝における地殻変動連続観測	京都大学防災研究所年報，第39号 B-1, 251-259.	和田安男・土居 光
1996	GPS Observations for Crustal Movements and Meteorology	Proc. IAG Regional Symp. on Deformations and Crustal Movement Investigations Using Geodetic Techniques, Aug. 31-Sept. 5, 1996, Szekesfehervar, Hungary, 16-22.	T. Nakano · K. Hirahara · A. Mousa
1997	Analysis of GPS Measurement in West Java, Indonesia,	Annuals, Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., No. 40, IDNDR S. I., 27-33.	B. Setyadji · I. Murata · J. Kahar · S. Suparka

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1997	Monitoring the Deformation of Guntur Volcano (West Java, Indonesia) using GPS Static Survey Method: Status and Future Plan	Intern. Symp. on Natural Disaster Prediction and Mitigation, December 1-5, 1997, Kyoto, Japan, 189-196.	H. Z. Abidin · O. K. Suganda · M. A. Kusuma · I. Meilano · B. Setyadji · D. Muhandi · R. Sukhyar · J. Kahar
1997	Comparison of crustal deformations observed with GPS and strainmeters/tiltmeters,	Geodesy on the Move, IAG Symposia Vol. 19, Springer, 1997, 450-458.	T. Nakano · Y. Hosono · K. Hirahara · A. E. Mousa · T. Hayashi · A. Suemine · S. Yabe.
1998	Deformation monitoring of Indonesian volcanoes using repeated GPS survey method: Status and plan	Symp. on Japan-Indonesian IDNDR Project, Sept. 21-23, 1998, Bandung, Indonesia, DPRI, Kyoto Univ., 39-50.	H. Z. Abidin · O. K. Suganda · I. Meilano · M. A. Kusuma · B. Setyadji · R. Sukhyar · J. Kahar · C. Rizos
1998	Towards the tectonic hazards mitigation using GPS techniques: Case-study west-Jawa, Indonesia	Symp. on Japan-Indonesian IDNDR Project, Sept. 21-23, 1998, Bandung, Indonesia, DPRI, Kyoto Univ., 107-113.	B. Setyadji · H. Z. Abidin
	B) 地震活動に関する研究		
1998	Comparison of seismic activities in west Jawa and in southwest Japan	Symp. on Japan-Indonesian IDNDR Project, Sept. 21-23, 1998, Bandung, Indonesia, DPRI, Kyoto Univ., 237-242.	K. Ito · K. Nakamura · H. Wada · T. Asada · B. Setyadji · W. Kuntjoro
	C) 地球潮汐に関する研究		
1961	重力の潮汐常数の精密決定	測地学会誌, 第7巻, 第1号, 16-29.	中川一郎 · 船曳 満
1966	地球潮汐資料の Fourier 解析	測地学会誌, 第12巻, 第2号, 77-84.	中川一郎 · 三雲 健
1966	Spectral structure of the earth tides and related phenomena	Special Contributions, Geophys. Inst., Kyoto Univ., No. 6, 215-223.	I. Nakagawa · T. Mikumo
1966	Spectral structure of the earth tides and related phenomena	Special Contributions, Geophys. Inst., Kyoto Univ., No. 6, 225-231.	T. Mikumo · I. Nakagawa
1971	和歌山市大浦および秋葉山で観測された土地の潮汐傾斜変化と海洋潮汐について	京都大学防災研究所年報, 第14号 A, 55-69.	
1972	地球潮汐傾斜・ひずみと海洋潮汐について (第1報)	測地学会誌, 第18巻, 第2号, 49-57.	
1972	地球潮汐傾斜・ひずみと海洋潮汐について (第2報)	測地学会誌, 第18巻, 第4号, 194-201.	
1973	地球潮汐傾斜・ひずみと海洋潮汐について (第3報)	測地学会誌, 第19巻, 第2号, 85-92.	
1973	On effects of ocean tides upon earth tides	Proc. Seventh Intern. Symp. Earth Tides, Akademia Kiado, Budapest, 607-618.	
1974	地球潮汐傾斜・ひずみと海洋潮汐について (第4報)	測地学会誌, 第20巻, 第1-2号, 36-41.	
1974	On the change of crustal elasticity and earth tides	J. Geod. Soc. Japan, Vol. 20, No. 3, 125-132.	M. Kato

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1976	Effect of dilatancy on ocean load tides	Pure and Applied Geophysics, Vol. 114. No. 3, 415-423.	
1977	The M2 earth tides at Cooney Geophysical Observatory in Armidale, eastern Australia,	Proc. Eighth Intern. Symp. Earth Tides, Bonn, 19-24 Sep. 1977, 510-529.	P. H. Sydenham
1977	Effect of ocean tides on gravity tides in Japan: the case of M2 tide, Geophys.	J. R. astr. Soc., 50, 141-147.	
1977	Possibility of temporal variations in earth tidal strain amplitudes associated with major earthquakes	J. Phys. Earth, 25, Suppl. S123-S136.	T. Mikumo · M. Kato · H. Doi · Y. Wada · R. Shichi · A. Yamamoto
1978	海洋潮汐の地球潮汐への影響	月刊海洋科学, Vol. 10, No. 8, 644-648.	
1978	地球潮汐への海洋潮汐の影響に関する一考察	京都大学防災研究所年報, 第21号 B-1, 137-143.	
1979	地球潮汐への海洋潮汐の影響に関する一考察 (続)	京都大学防災研究所年報, 第22号 B-1, 55-60.	
1980	VLBI による地球潮汐観測システム	「測地・地球物理学における VLBI 利用」に関するシンポジウム集録, 昭和55年 6 月23, 24 日, 28-32.	
1983	地球潮汐と VLBI 観測	「位置天文学における新技術研究会」—宇宙技術の測地利用—集録, 1983年 1 月, 160-171.	
1985	由良における地球潮汐の観測 (観測システムと潮汐定数)	京都大学防災研究所年報, 第28号 B-1, 65-78.	加藤正明 · 細 善信
1986	西南日本における海洋潮汐と地球潮汐の観測	月刊海洋科学, Vol. 18, No. 6, 334-338.	
	D) 重力に関する研究		
1961	重力の時間的変化について (国際地球観測年重力観測 第三報)	京都大学防災研究所年報, 第 4 号, 61-80.	西村英一 · 中川一郎 · 一戸時雄 · 船曳 満
1998	Gravity survey crossing the Lembang fault and the Cimandiri fault	Symp. Japan-Indoensia IDNDR Project, Sept. 21-23, 1998, Bandung, Indonesia, DPRI, Kyoto Univ., 215-221.	K. Nakamura · K. Ito · H. Wada · T. Asada · B. Setyadji · W. Kuntjoro · J. Kahar
	E) 大気屈折率と測地に関する研究		
1983	岐阜県上宝地域で行なっている光波測量への気象的影響	測地学会誌, 第29巻, 第 1 号, 10-18.	細 善信 · 和田安男 · 土居 光
1985	大気中の水蒸気による電波屈折率の変化と GPS による測位への影響	測地学会誌, 第31巻, 第 4 号, 305-312.	
1986	Water vapor in the troposphere and excess path delay of microwaves	Proc. Symp. on Application of Space Techniques to Astronomy and Geophysics, 1986, Tokyo, 88-92.	
1986	冬季における大気中の水蒸気の地域的分布とマイクロ波の伝播遅延,	測地学会誌, 第32巻, 第 3 号, 167-173.	
1987	典型的気圧場における水蒸気分布と excess path delay	GPS の測地利用および応用に関するシンポジウム集録, 昭和62年 1 月28-29日於海上保安庁水路部, 11-25.	後藤常男

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1987	大気中の水蒸気によるマイクロ波の遅延と宇宙技術利用精密測位の誤差について	京都大学防災研究所, 第30号 B-1, 41-45.	
1988	Correction of excess path delay by water vapor in the troposphere on precise GPS positioning	Proc. Japanese Symp. on GPS on Jan. 27-29 at the Hydrographic Dep. Maritime Safety Agency, 233-237.	
1988	南極 VLBI による地球潮汐及び地殻変動の観測と電波伝播遅延	南極・VLBI「南極・VLBI に関する研究小集会」, 1988年9月国立極地研究所, 31-35.	
1992	宇治市における2台の水蒸気ラジオメータによる予備観測結果	1991年度経緯度研究会集録, 153-156.	中村佳重郎・平原和朗
1993	Preliminary results of water vapor radiometer observations for correction of excess path delay on precise positioning by GPS	J. Geod. Soc. Japan, Vol. 39, No. 2, 97-105.	M. Ohba・K. Hirahara・K. Nakamura
1993	Crustal deformation observed at the Sagami Bay area, Japan, by means of GPS interferometry	J. Geod. Soc. Japan, Vol. 39, No. 2, 1107-119.	The Japanese University Consortium for GPS Research
1993	Observation of microwave propagation delays with water vapor radiometers	Proc. Japanese Symposium on GPS (1993), on January 27-29, 1993, at Research Exchange Center in Tsukuba, 122-129.	M. Ohba・K. Hirahara・K. Nakamura・T. Hayashi
1995	Characteristics of Water Vapor Distribution in the Atmosphere and GPS Positioning in Southwest Japan	Proc. Fourth International Symposium on Recent Crustal Movements in Africa (RCMA'94), Nov. 28-Dec. 2, 1994, Nairobi, Kenya, 99-112.	A. Mousa・M. Ohba・K. Hirahara
1996	西南日本における水蒸気ラジオメータ観測に基づいた Wet Mapping Function の包括的な解析	京都大学防災研究所年報, 第39号 B-1, 287-295.	ムサ アシュラフ
1997	Tropospheric wet delay of microwaves at Shionomisaki, southwest Japan and a preliminary evaluation of mapping function F) 計測器の開発に関する研究	J. Geod. Soc. Japan, Vol. 43, No. 3, 145-158.	A. Mousa
1959	On a tiltmeter for the observations of secular ground tilting	Report on IIIeme Symp. Intern. Marees Terrestres, Trieste, Juillet, 1959, 106-107.	E. Nishjimura・Y. Tanaka
1965	可変容量型歪計の試作	京都大学防災研究所年報, 第8号, 83-89.	加藤正明
1966	On the extensometer of a variable capacitor type	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol. 15, Part 3, 49-59.	
1966	逢坂山観測所における可変容量型歪計の試験観測について	京都大学防災研究所年報, 第9号, 63-68.	岸本兆方

著 書

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1974	測地学の概観	日本測地学会	日本測地学会編
1985	地震予知Ⅱ	学会出版センター	

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1994	現代測量学 (5) 測地測量	日本測量協会	日本測地学会編 第9回「大学と科学」公開 シンポジウム組織委員会編
1994	現代測地学,	日本測地学会	
1995	自然災害と地域社会の防災 安全な社会生活を守るために	クバプロ	

解説・その他

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1984	太平洋地域の地殻変動国際シンポジウム (1984年) 出席報告	測地学会誌, 第30巻, 第2号, 146-149.	笠原慶一・中村一明 加藤照之
1985	地殻変動観測の問題点と今後の課題「パ ネル討論 地殻変動研究の現状と今後の 課題」	測地学会誌, 第31巻, 第1号, 147-154.	
1986	第7回地殻変動国際シンポジウム (1986 年)	測地学会誌, 第32巻, 第4号, 310-313.	
1988	「天文学の国立研究所」についてのアン ケート結果にたいする感想	天文月報, 2月, 52-53.	
1989	Earthquake prediction from crustal movement observations in Japan	Proc. Japan-China (Taipei) Joint Seminar on Natural Haz- ard Mitigation, Kyoto, Japan, July16-20, 1989. 21-29.	
1989	国際測地学協会学術総会 (エディンバ ラ, 1989年) シンポジウム101 “全世界 のおよび地域的地球力学” 出席報告	測地学会誌, 第35巻, 第4号, 413-414.	
1991	国際測地学協会 第V分科地球動力学	測地学会誌, 第37巻, 第3号, 283-284.	
1992	概論: GPS の地球科学への応用	月刊地球, Vol. 14, No. 7, 371- 372.	
1993	局所的な地殻変動研究から国際スケール の地殻変動の研究へ	シンポジウム「これからの地殻 変動研究・観測と地震予知」集 録, (1992年12月7-9日) 於町 営国民宿舎木太刀荘, 125-129.	
1993	ヨーロッパにおける最近の地殻変動に関 する IAG (国際測地学協会) 地域シン ポジウム	測地学会誌, 第39巻, 第3号, 321-322.	
1995	地殻変動連続観測	月刊地球/号外 1995年兵庫県 南部地震—近代都市直下に起こ った大地震の報告—, No. 13, 141-147.	
1995	IAG (国際測地学協会) における日本の 貢献	月刊地球/号外, No. 11, 38-41.	
1996	インドネシアとの災害科学の共同研究	学術月報, Vol. 49, No. 3, 66- 71.	
1997	Contributions and Perspectives of DPRI during and after IDNDR	Intern. Symp. on Natural Dis- aster Prediction and Mitiga- tion, December 1-5, 1997, Kyoto, Japan, 1-6.	
1998	The eight years of the joint research in volcanology and tectonics between In- donesia and Japan	Symp. on Japan-Indoensia IDNDR Project, Sept. 21-23, 1998, Bandung, Indonesia, DPRI, Kyoto Univ., 5-8.	